

にしひらち
西平地遺跡 (範囲確認調査)

所在地 豊田市勘八町西平地
(北緯35度7分0秒 東経137度11分41秒)
調査理由 一般国道153号豊田北バイパス
調査期間 平成26年2月
調査面積 200㎡
担当者 鈴木正貴

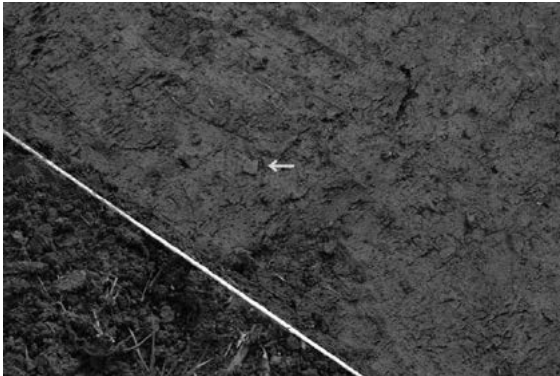


調査地点 (1/2.5万「豊田北西」)

調査の経過 調査は国土交通省による一般国道153号豊田北バイパス建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成26年2月に実施した。調査対象地は丘陵頂部にあり、現況は耕作地と竹林である。県教育委員会の有無確認調査の結果を受け、1m×2mから1.5m×40mまでの規模のテストトレンチを合計25ヶ所設定した。

立地と環境 西平地遺跡は矢作川左岸の河岸段丘面に所在し、標高は75m～80mを測る。有無確認調査で中世の中国産青磁片が発見された遺跡であり、付近には馬場瀬古墳群が所在する。

調査の概要 調査は、中世を中心とした遺跡範囲の広がり、馬場瀬古墳群に関連した遺構の有無、および旧石器時代の遺跡の有無などを視野に入れて実施した。調査の結果、全てのテストトレンチで層厚10～30cmの表土を除去した直下から、黄褐色シルトや中粒砂などで構成される地山が露出した。この地山を掘り込む土坑などがいくつか検出されたが、いずれも



TT-02 灰釉陶器出土状況 (北西から)



TT-05 土層断面 (南東から)



TT-01 掘削前状況 (東から)



TT-02 検出された遺構? (西から)

江戸時代以降に属するものと推定された。

矢作川に面する西向き斜面の上端部には長さ20mのテストトレンチを2ヶ所設定したが、古墳および関連する遺構・遺物は確認されなかった。また、調査対象地中央を東西方向に長さ20m～40mのテストトレンチを3ヶ所設定し、深さ1m以上掘削したところ、20～50cm大の円礫を多く含む堆積など地山の堆積状況が確認されたが、そこから遺構・遺物を発見するには至らなかった。

ま と め 遺物は、TT-02から灰釉陶器片が1点確認された。また、江戸時代後期から近代にかけての陶磁器片が十数点出土した。

今回の調査では、中世に関わる情報を得ることができなかったが、平安時代の遺物を発見することができた。しかし、出土遺物は極めて少なく、集落遺跡などが存在したとは言いがたい状況である。

(鈴木正貴)

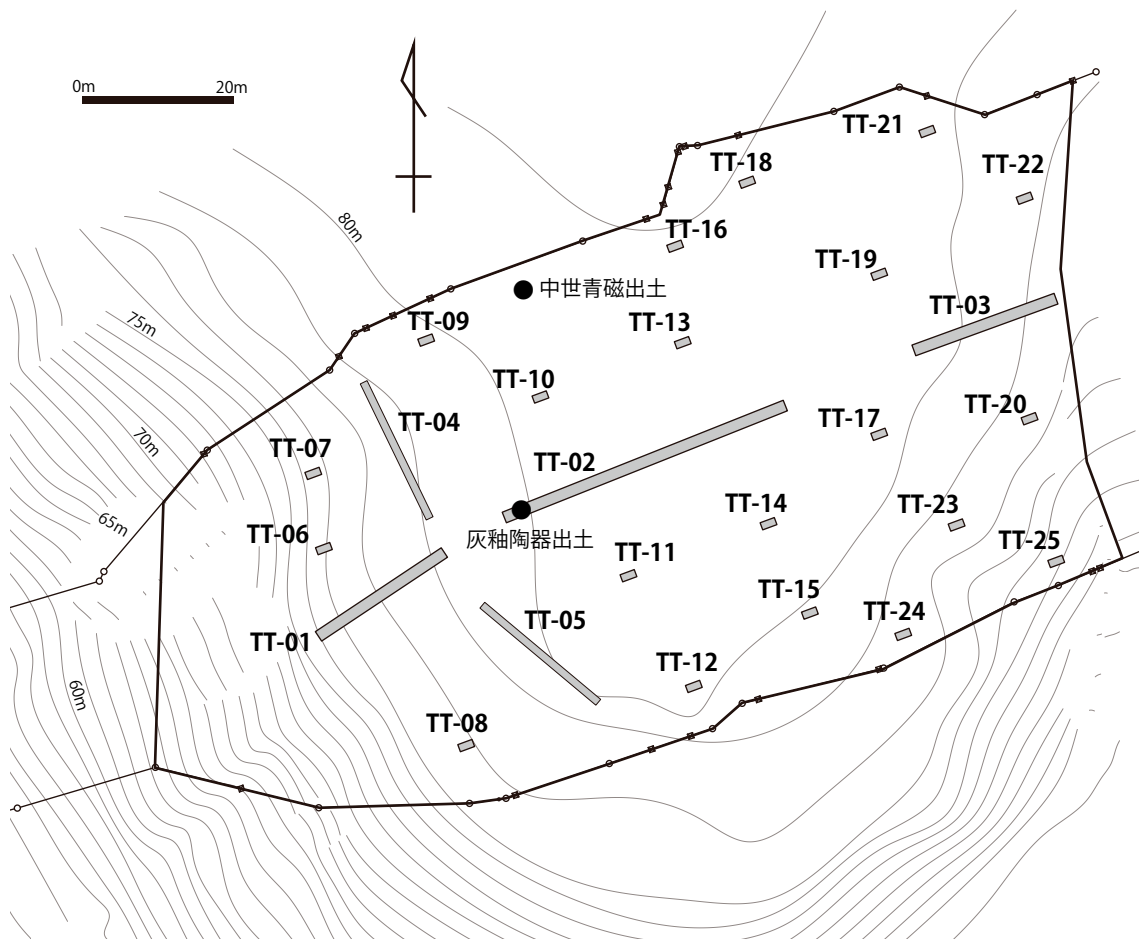


図1 西平地遺跡トレンチ配置図 (1:1,000)